

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2792000370		
法人名	医療法人 弘善会		
事業所名	グループホーム あろんていあ住吉		
所在地	大阪市住吉区南住吉1-4-34		
自己評価作成日	平成 30年 10月 18日	評価結果市町村受理日	平成 30年 12月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2792000370-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 30年 11月 30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が病院の為、24時間医療機関との連携は充実しています。認知症になっても安心して自分らしく暮らしていける様に支援を行っています。設備には特殊浴槽も設置し、最後まで看取りまでの支援を医療と連携して行っています。また、認知症ケアについても認知症介護実践者研修指導者・リーダー研修受講者を中心としてケアの在り方を共有していき、入居者様の暮らしの支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1年前、「グループで関わった全ての人を最後まで支える」という思いで医療法人が設立したグループホームです。地域で生活しづらい人たちが、人権や尊厳を損なわれない暮らしを実現する考えが基本となっています。閑静な住宅街にある建物で、1階は小規模多機能事業所、2階から4階がグループホームです。本人の状態に応じた入浴など、併設の事業所との連携で、重度の利用者も安心して長く暮らすことができます。家族や地域とのつながりも大切にし、人と人が関わっていく施設作りを目指しています。管理者はじめ職員は、「利用者を管理しない。自由に暮らしてもらう生活」を実践しています。外出の機会も多く、毎日の散歩は日常的なものになっています。同グループによる医療面でのバックアップは、利用者が安全で不安なく過ごせる毎日に繋がっています。経験豊かな管理者は、職員の自主性を尊重し人材育成に取り組んでいます。「チームワークのよい職場。利用者に目が向き、話題は利用者を中心なことが私たちの自慢」という職員が支える利用者の暮らしは、ほのほのとしており、温かい雰囲気を感じさせるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設前に小規模多機能と共に、スタッフの意見から「コミュニケーションを大切に。笑顔ある自分らしい生活を護る」と理念を作ったが一年が経過し、新しいスタッフの意見・フロアーの状況から見直しも必要と考える	開設時「あなたがいると癒される あなたがいると笑顔になる あなたがいるとほっとする そんな暮らしがここにある」という考えを大切にしようと、オープニングメンバーで作りました。1年が経過し、グループホームとしての新しい理念を職員間で作成中です。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	神社の獅子舞の方が来て頂いたり、地域の盆踊りに参加させて頂き、地域密着を心がけている	地域との繋がりを大切にしていき、人と人が関わり合っていく施設作りをしていくべきだとの考えです。地域の盆踊りには利用者も参加しました。生根神社の獅子舞はホームの前に来てくれます。町内会からは、近くのグラウンドを自由に使っていいと言ってもらっています。「0歳から100歳まで」をスローガンに掲げた「あろんていあ住吉秋祭り」は、軽食の屋台やゲームの屋台、演奏会を行い、地域の子ども達も多く参加し楽しい時間を過ごしてもらいました。今後は、認知症や薬のこと等、気軽に相談してもらえるホームでありたいと考えています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	認知症介護研修指導者から、認知症の勉強会なども声掛けを行い、地域からのご相談があれば、その都度対応している。また事業所の秋祭りを通して、地域の方々、子供達が入りやすい環境の工夫を行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、意見交換・情報収集を行っている。入居者様・ご家族にも参加頂き、日々のケアの向上に努めている	利用者・家族・町内会役員・民生委員・地域包括支援センター職員の参加で、2ヶ月に1回開催しています。会議では、利用者の活動や普段の様子をスライドショーで紹介しながら、ホームの活動状況や取り組み等を報告し、参加者から意見・評価・助言を得て、ホームの運営に活かしています。参加者から、地域の集会所でのふれあい喫茶や認知症カフェの紹介、桜の見頃の情報など教えてもらい、利用者の楽しい日が実現しました。議題はホームの事だけに限らず、地域全体について意見交換することもあります。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事や書類などで困った事、生活保護など、相談しながら協力関係を築けるように努力している	分からないことや困ったことがあれば、区の担当者に相談しています。今まで事故の発生についての報告例はありませんが、今後起こった場合は報告していく考えです。区内のグループホーム連絡会の会合に参加し、情報交換を行っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関からエレベーターの動線が職員から目が届きにくい構造になっており、安全面を配慮して玄関・エレベーターにはロックがかかっている。外に出たい希望があれば、散歩やユニット間の交流を行い、気分転換を図っている	身体拘束に関する研修を行い、身体拘束はありません。権利擁護の視点から映像で学ぶ虐待防止の研修も実施しました。夜、一人で歩行し転倒の危険性がある利用者には、職員で知恵を出し合い、本人や他の利用者のストレスにならない鈴を居室入口につけ、安全な生活を支援しています。安全面への配慮から、玄関・エレベーターはロックがかかっています。利用者に閉塞感を感じさせないように、職員と一緒に散歩や外出は日常的に行うことを意識しています。また、利用者が外出したような様子を察知したら、職員と一緒に付き添うなど、自由な暮らしの支援をしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や会議で虐待について周知し、スタッフの言動が虐待に当たらないか、話し合い虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者様もいらっしゃるので、情報を定期的にお伝えしながら、円滑に活用できるように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書や契約書にそって説明を行い、ご理解を頂いた上で契約を行っている。疑問点などあれば、随時説明を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様・家族様からご意見を頂く事が多い。ご家族からは主に運営推進会議で意見を頂き、運営に反映させている	家族からより多くの意見や要望を出してもらえるように、家族訪問時に声かけし、言いやすい雰囲気作りを心がけています。家族からの意見や要望は、利用者個人別の連絡ノートに記録し、職員間で共有しています。秋祭りには多くの家族が参加し、家族間の交流も行われました。	今後、利用者の暮らしぶりがわかる便りやニュース等を作成して家族に送付し、面会に来ることが難しい家族にも安心してもらってはいかがでしょうか。利用者や職員の笑顔の写真が家族にも届くことが期待されます。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は随時、スタッフの意見や提案に耳を傾けて、運営や環境に反映できるように努めている	毎日の申し送りで、職員は意見を出し合っています。全体会議やユニット会議は実施していない状況ですが、計画作成担当者会議、身体拘束委員会、感染症予防委員会等の各委員会で話し合っています。管理者は、ホーム内をラウンドしながら、職員の意見や要望を聞いています。管理者と職員の信頼関係がよく、職員の自主性が尊重される職場環境は、職員の士気を高めています。職員の工夫をホーム内のあちこちに見ることができます。	職員の意見や要望が言いやすい職場環境ですが、今後は職員全員で話し合える会議や各ユニット会議などの開催が期待されます。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標シートを設定し、個人の評価を行い給与に反映できる環境を設定している。また各スタッフが個人的な負担が大きくなりすぎないように各フロアーにてスタッフ同士の声掛けができる環境作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の定期的な研修を行い、知識・情報を共有する様に努めている。 また、まずは行ってみるといった考えを第一とし、スタッフの自主性の向上。気付きや工夫の情報交換を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内での交流は行えている。他職種との交流は意見交換・グループ内での勉強会にて取り組んでいる。 認知症対応型共同生活介護同士の交流は出来ず、今後の課題と言える		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の担当者と連絡を取り合い、情報を引き続き、スタッフ間で情報を共有している。また環境面でも出来る限り、以前と暮らし方が変わらない様に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談にて家族様から生活歴や好みなども聞き、ご本人が安心して暮らしていけるような関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様との関係性も大切にしながら、入居者本位の暮らしが出来るように支援できる様に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	フロアで行う事は基本的にできる事は入居者様にも行って頂く様にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来園・面会に来られた際は近況の状況を報告し、今後のケアにつなげる様に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々、以前に住んでいた自宅へ帰る時に近隣の方とおしゃべりが出来るように支援を行っている	友人・知人がホームを訪問することがあります。友人の訪問時には、お茶の接待をし、ゆっくり話ができるように支援しています。馴染みの美容院に出かける利用者もいます。自宅に散歩に行った時に、隣の人から声をかけてもらう利用者もいます。併設の小規模多機能事業所利用者との交流も、馴染みの人同士が顔を合わせる機会です。職員は、家族等から聞いた昔ばなしに、利用者の長い人生に思いを馳せる大切さを学んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者1人1人得意分野が違うため、役割を分けたり、他者と気持ちよく関係をとれるように工夫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、退去された方は2名。1名のご家族様はその後、ホームに来園して下さったりと関係が繋がっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	記録や毎月のモニタリングや日々の会話などから、本人の意向を読み取る様に努めている	職員は、毎日の生活場面の中で、利用者の意向や希望を聞き取り、一人ひとりに合わせた支援を行っています。「一緒に過ごす時間」を大切にし、思いや意向の把握に努めています。日常の関わりの中での気づきや発見は、利用者一人ひとりの連絡ノートに記録し、職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の暮らしも個人ファイルにまとめ、スタッフがいつでも見れるように整えている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の過ごし方を把握し、残存機能を活かした暮らしができるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画にはフロアスタッフの意見をまとめ、また作業療法士の意見を加え、入居者の暮らしをより良く支援出来るように努めている	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。基本は短期目標を3ヶ月、長期目標を6ヶ月毎に見直し、状態に変化があった場合は随時見直しています。介護計画の実施項目が、ケース・モニタリング記録に記載され、毎日モニタリングできます。一人ひとりの介護計画と実施記録が連動し、職員が介護計画を確認・理解できる工夫がされています。介護計画作成にあたっては、事前に家族の希望を聞いています。計画作成担当者は、計画を作成する際には「本人がやりたいことをプランにあげる。家族や職員に解りやすい言葉のプラン作成」を心がけています。また、利用者のその日その時の気持ちや体調を重視し、柔軟に支援できる介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録として日々の生活状況や気付いたことを記録に残しており、スタッフの出勤時には目を通して把握する様にしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の協力のもと、日曜日の礼拝に参加できている方もいるが、個々のサービスの多様化は出来ている方はまだ少ない		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の盆踊りや行事には参加している。ホームの行事も地域の方にお知らせを配り、来園して下さるように勧めている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療が中心だが、入居者様のニーズや家族の希望から近隣の医療機関を受診し、家族・かかりつけ医にも報告を行っている	入居時に利用者・家族と話し合い、希望によりホーム提携医のほかに近隣の医療機関を受診することができます。ほぼ毎日提携医による往診があり、利用者は通常月2回診察を受けています。毎週、訪問看護師による体調チェックやアドバイス、医師への連絡相談など、きめ細かな利用者の健康管理に努めています。母体が病院であるため24時間対応体制で、適切な医療を受けられるようしています。さらに歯科医による訪問診療を受けることもできます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に気づいたことや健康状態を伝え、適切な医療が受けれるようにアドバイスを頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	母体が病院の為、24 時間対応の体制がとれている。また病院の相談員とも連携をとり、早期の退院の受け入れに努めている。また地域の病院関係者とも連絡を取り、なじみの関係性を作っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期は担当医から時期の見極め、話し合いの場を設けている ご家族様にも事業所で出来る事を説明し、方向性を全スタッフで共有できるように努めている。	ホームでは、「重度化対応に関する指針」を定め、利用者や家族の意思並びに意向を最大限に尊重しています。入居時には、ホームの体制や医療機関との連携体制等、丁寧に説明を行っています。また、看取りケアにおけるホームの役割や対応方針、緊急時の対応手順等についても、職員間で共有しています。ホームで看取りケアを実施している事例があります。	今後、利用者の重度化やホームでの看取り希望が予想されます。 研修や看取りケアに関するマニュアル整備、介護技術のレベルアップ等、看取りケア実施体制の整備が期待されます。マニュアル作成時には、これからの看取りの際、不安なこと・整備して欲しいこと等、職員間で意見を出し合い進めていかれてはいかがでしょうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の医療への緊急連絡網は全スタッフ周知しているが、応急手当などの訓練は今後の課題となっている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを掲出し、迅速な対応を心がけている。また、年 2 回の避難訓練実施により、具体的な行動を共有できるように努めている	ホームでは、防災マニュアルを作成し、開設2ヶ月目に日勤帯を想定した自主避難訓練を実施しています。平成30年12月には、市の委託を受けた自衛消防訓練サポートセンターの立会いによる避難訓練を控えています。備蓄については、現在準備段階です。管理者は、災害用備蓄等の準備について職員間で話し合い、情報を共有することが課題であると認識しています。	火災や地震、水害等の発生時に伴い、停電や断水が起こり得ることを想定し、食料品や電気器具等の非常持ち出し品の準備をしておくことが大切です。今後、非常災害時用備蓄等の準備について、職員間で意見を出し合い、早期に進めていかれてはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重し、信頼関係を構築できるように心がけて対応している。	管理者は、「利用者一人ひとりの尊厳を傷つけず、そして利用者が何気ないことから自信を持ち、楽しく自由に暮らしていくこと」を基本原則とし、職員へ指導をしています。職員は、ケアが必要な場面でも、まずは利用者の思いや気持ちを最優先にし、利用者が「自己決定」しやすく、自信を奪わない言葉かけをするように取り組んでいます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	自己決定を尊重している。すぐに対応できない事もあるが、スタッフで共有し、実現できるように努力している。自己決定が出来ない方には選択肢から決定できるように声をかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のローカルルールは出来るだけ無くすように努力しているが、決め事には入居者様の意向を入れるようにしている。出来る限り入居者さまの暮らしの支援を優先できるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身だしなみは大切にしている。また着る服を自己決定し、髪は訪問美容で希望に添う様に行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者から食材が届き、ホームで調理を行っています。得意な方には調理から手伝って頂き、準備・後片付けとスタッフと一緒に頂く事を基本としています	食事は、業者からチルド食品が届き、炊飯と汁物については、ホームで対応しています。職員は、「利用者の食事は、提供される物ではなく自分たちで作る物」を基本とし、利用者は、日替わりで役割を担っており、盛り付けや片付け等を職員とともにを行っています。ホームのキッチンは、オープンキッチンを採用しており、利用者同士や利用者と職員が常に顔を見ながらコミュニケーションを取ることができるよう配慮した作りになっています。また、職員は、利用者が安全で楽しく食事を摂ることができるよう、さりげないサポートや見守りをし、明るい雰囲気作りにも努めています。お好み焼きや屋台風天ぷら、おはぎ等の食事レクリエーション、誕生日会や敬老祝賀会等の行事食は、利用者や家族から好評を得ています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは業者の栄養士が対応している。水分量は記録にも残し、ご本人の好きな飲み物も提供している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを大切にしている。希望者は訪問歯科を利用し、義歯の調整や衛生管理を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本として声掛け・誘導を行っている。記録にも残し、それに合った支援が出来るように工夫している	職員は、利用者一人ひとりの排泄の習慣やパターンを把握し、利用者の尊厳や自尊心に配慮した言葉かけやトイレ誘導等、個別の排泄支援に努めています。ホームでは、随時のトイレ誘導で、紙パンツ使用から布パンツ使用へ変更となった、排泄の自立に向けて取り組んだ事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めにとりて頂いたり、運動・体操などもスタッフと一緒に頂いている。またヤクルトなど希望などを聞き提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は週2回としているが、希望に添えるように努力している。職員数によっては午前中も入浴対応できる為、入浴時間帯も入居者様の希望を聞いている。機械浴も設置し個人浴では難しい方にも対応している。	利用者は基本週2回の入浴のほか、体調により足浴なども行っています。入浴時間帯もできる限り利用者の希望を聞くようにしています。石鹸、シャンプーなども利用者の好みのものを使うことができます。風呂場では、それぞれ好みのシャンプー・ボディシャンプー等がたくさん並び、個別ケアの実施状況を見ることができます。入浴を好まない利用者には、言葉のかけ方、タイミング、気分など見計らい、種々工夫して入浴を促しています。家庭浴槽の使用が困難になってきた利用者は、機械浴槽により入浴を楽しむことができます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じて居室で休んで頂いている。頑張りすぎて休憩が取れない方にはスタッフから声をかけ休息の時間を設けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	計画作成者が医療関係者と連携をとり、状況を報告している。また薬剤管理を薬局が入り、服薬の相談を随時行い、入居者様にあった服薬方法を支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	暮らしの中での役割を個人的に持って頂き、充実を感じて頂けるように支援している。また、息がつかまらないように散歩やちょっと外に出ていく事を随時行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物などはスタッフと共に随時外出している。遠方へは家族様と出掛けられている。	屋内に引きこもらず外の空気に触れることが大切と、利用者はスタッフと一緒に近所を一まわりしたり、買い物に出かけたり、神社まで足を延ばしたり、と日常的に外出しています。時にはホームの車での買物に便乗して出かけることもあります。利用者の外出したい気持ちを察知すると職員はさりげなく一緒に出かけるようにしています。家族との外出は自由で、よく散歩に出かける人もあります。 初詣、花見、バラ園など行事としての外出も計画しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様が個人的にお金を持つてはいいないが、事務所にて預り金として保管している。預り金は個人の好きな物や必要な物を一緒に買い物に行く事で使用している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご自身の携帯で家族様と連絡を取られている方もいます。その他の方は希望があれば、スタッフが施設の電話から連絡をとり、本人に代わる事もあります		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のリビングで過ごす事が多く、音や匂い・光など過度な刺激がない様に心がけている。また、廊下や居室には四季が感じられるように飾りをつけている。	エレベーターを出たところがホームの廊下です。木材をふんだんに使ったやわらかな温かみのある内装です。廊下を通り抜けたところに広いリビングダイニングキッチンがあり、窓からははるか先にハルカスが見渡せます。テーブルが数台、ソファが2～3脚、テレビ、空気清浄機などがゆったりと配置されています。壁にはカレンダー、予定表、利用者による本日の「おしな書き」が貼られ、大きな誕生日祝いの装飾も印象的です。廊下には利用者の書道作品、塗り絵、スナップ写真等が飾ってあります。利用者はリビングルームでくつろいで、自由に過ごすことができます。片側に洗面台、共有空間内にトイレが3カ所、表示はわかりやすく見やすい110センチの高さに掲示されています。ベランダには洗濯物が翻り、都会風景とともにホームらしさを醸し出しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の場所・ゆっくりできる場所を分け、入居者様が自由に自身の居場所を決めていけるように環境を整えている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご本人が使い慣れた物や家具を持ち込んで頂けるように勧めている。またご本人が使いやすいようにベッドの位置や家具の位置を家族様とも相談をあげて配置を考えている	各居室のドアには、本人の好みによる飾りが表札とともに目線の高さにかけてあります。広い窓のある居室はエアコン、照明、電動ベッド、リネン類、カーテン、エアコンが事業所により準備され、壁の色はやわらかなパステル調になっています。利用者は使い慣れた好みのものを持ち込むことができ、整理ダンス、机、椅子などそれぞれ居心地よく整えられています。夫の遺影・家族の写真、職員の利用者への温かい思いのこもった敬老の日の手書きの感謝状・手芸作品などを飾り、日常のこまごましたものも置いてあり、その人らしい部屋になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には大きな手作りの表札をつけ、判断できるように工夫している。また時間がわかりにくい方にはテーブル上にも時計を置き、今の状況を自身で判断できるように工夫している		